



1 はじめに

本校は、平成27・28年度の2年間にわたり、さいたま市教育委員会より「教育の情報化」の研究指定を受け、学校をあげて研究に取り組んできた。

本校では、以前より授業中に資料の提示や内容の説明などで ICT を活用した授業を展開していた。しかしながら、教師主体の活動にとどまり、生徒自身の主体的な活動につながっていなかった。そこで、「授業での教師による ICT 活用の効果を高める研究」と「生徒による ICT 活用能力を高める研究」の二つの研究を柱として、「ICT を活用したわかる授業の工夫」の実践に取り組んできた。

以下に、取組の一端を紹介する。

2 具体的な取組

(1) 授業での教師による ICT 活用の効果を高める研究

学習指導の効果を高める ICT 活用のためには、単に授業の中で活用するだけでなく、教育効果が高まるように ICT 活用の場面やタイミング、活用する上での創意工夫をする必要がある。本校では、社会・理科の授業でデジタル教科書をデジタルテレビに映すことや、数学の授業で実物投影機を使い教科書や生徒が記入したワークシートをデジタルテレビやプロジェクターで映し出し全体で共有すること、保健体育の授業で



ハイスピードカメラ機能付きのデジタルカメラ

で運動の様子を撮影しフォームを確認することなどの実践を行ってきた。

(2) 生徒による ICT 活用能力を高める研究

教科書の学習目標を達成するために、生徒が ICT を効果的に活用する方法について研究を行った。例えば、数学や社会の授業での資料の収集・処理や、国語やグローバル・スタディの授業での群読やスピーチの動画撮影を行い、確認し合うことで、よりよいものにする活動、また、理科の授業での観察・実験などの計画や考察で、生徒自らタブレット型コンピュータや実物投影機を活用するなどの学習に役立てた。さらに、総合的な学習の時間における問題解決や、探究活動の過程において、国際交流事業で外国人留学生に日本の文化を紹介する授業を、タブレット型コンピュータとデジタルテレビを利用して行った。



3 おわりに

本研究の推進により、多くの生徒が「ICT を活用した授業は学習に役立つ」と感じており、生徒アンケートのコメントからも「見えづらいものが見えやすくなり、授業がおもしろくなる」、「コラボノートは生物の特徴をまとめやすい」など学習効果の高まりを生徒たちが感じていることが分かった。今後も生徒にとって「わかる授業」を実践するべく、アクティブ・ラーニングの視点も意識して、引き続き研究に取り組んでいきたい。